

# 生物多様性にしのみや戦略（概要）

## 第1章 戦略策定にあたって

- ・西宮市における自然環境や、生物多様性に関してこれまでに実施してきた取組を体系的に整理し、西宮市に住まうあらゆる主体が共有できる基本指針として生物多様性地域戦略を策定する。
- ・戦略の期間は、新環境計画と同様に平成30年度とし、原則として概ね5年ごとに見直しを行う。

### 基本的な考え方

学びあうまちの仕組みを育てます  
 地域に根づいた多様な主体による参画と協働  
 「にしのみや」らしさ  
 人と自然が共生するまちを目指して  
 地球規模のつながりを意識して

## 第2章 現状と課題

多様なにしのみやの自然環境 / 西宮市の自然環境における取り組みと課題 /  
 市民・事業者の意識

## 第3章 にしのみやの戦略がめざすもの

### 将来像

<望ましい将来像>

～環境学習を通じ、豊かな心を育み、自然の恵みを未来につなぐまち・にしのみや～

西宮市の豊かな自然やそこで育まれてきた豊かな心、先人から引き継がれてきた文化・伝統・知恵などを未来へ引き継いでいくため、環境学習を通じて、子どもから大人までの各世代が、生態系に配慮した地球にやさしい営みを持続していくまちの実現を目指します。

<生態系ごとの将来像>

まちの将来像    山の将来像    川・池沼の将来像    海の将来像

### 目標

将来像の実現に向けた5つの基本目標と2つの数値目標

1. 環境学習を通じた人づくり、地域づくり、しくみづくり
2. 広域的な視点からみた自然環境の保全
3. 生息状況の把握と保全体制の構築
4. 絶滅の恐れがある種とその生息環境の保全
5. 生態系ネットワークの形成

行動計画へつなげるための現状分析の手法

## 第4章 行動計画

### 生態系戦略

#### 市全域

生物多様性に関する環境学習システムの推進 / 地域活動を通じた生物多様性の保全 / 希少野生動植物の保全 / 調査体制の構築 / 地域連携保全活動計画策定の推進 / 生物多様性体験学習拠点の設置 等

#### まちの戦略

学校園・保育所ビオトープの設置及び推進 / 市民参画による生物多様性に配慮した公園づくり / 社寺林における生物多様性の保全 / 混雑地の推進 等

#### 山の戦略

甲山グリーンエリアにおける里地・里山整備 / 生物多様性に配慮した里山整備 / 生物多様性に配慮したゴルフ場管理の推進 / 農地を活用した環境学習の推進 等

#### 川・池沼の戦略

メダカやカワバタモロコなどの希少動物の保全 / 生物多様性に配慮した河川管理 / 生物多様性に配慮したため池の保全 等

#### 海の戦略

海岸部における自然体験や清掃活動 / 甲子園浜の干潟の保全・再生 / 海浜や干潟における希少生物の保全 / 埋立地の環境保全

生物多様性の  
保全・再生

生物多様性の  
持続可能な利用

生物多様性を  
支える基盤づくり

## 第5章 推進体制と進行管理

### 各種主体の役割

生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みに当たっては、行政や一部の取り組みだけでは十分ではなく、市民一人ひとりが生物多様性の担い手となる必要があります。市民、事業者、専門家、学校園、行政がそれぞれの役割を果たすとともに、広く連携することにより幅広い関係者の取り組みに発展させ、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた大きな流れとしていくことが重要です。

- ・市民の役割    ・事業者の役割    ・行政の役割    ・学校園、保育所の役割
- ・NPO等の役割    ・研究者などの専門家の役割    ・市民団体の役割

### 戦略の推進体制

生物多様性地域戦略を推進するためには、市民、事業者、行政の各主体がそれぞれの役割に基づく責務を果たすとともに、各主体間の連携による協働の取り組みが必要となります。計画の推進にあたっては、次の組織づくりと支援のしくみを整え、推進体制を確立します。

### 生物多様性推進母体の概要

西宮市の自然環境を将来にわたってより豊かなものにしていくため、まち、山、川・池沼、海といったそれぞれの生態系を基盤として、行動計画を進めるための原動力となる関係施設間のネットワークを構築していきます。また、各関係施設には、行動計画を体系的・構造的に進めるための機能として、シンクタンク機能、人材育成機能、情報収集機能を備えていきます。

戦略の効果的な実施（EMSによる進行管理）